

令和6年度

滞在アーティスト誘致交流事業文化村 AIR 成果発表展 概要報告

11月16日(土)から27日(水)まで、天理本通り商店街内のArt-Space TARNにおいて、なら歴史芸術文化村滞在アーティスト誘致交流事業実行委員会主催による「なら歴史芸術文化村滞在アーティスト誘致交流事業 文化村 AIR 令和6年度成果展 綿々とはたづみ」を開催しました。

私は制作において、自分の足で歩くことを大切にしている。写真は視覚芸術に他ならないが、「見る」ということには、気づき、考え、知り、感じるということが含まれているように思う。そして、その土地の植物や町の匂いをかぎ、光や踏みしめる土地の質感を肌で感じ、動物や人の生活の音を聞きながら、唇に触れる空気を吸い込む。それらが作品に還元されていく。そもそも、ずっと長い間、人は歩いて移動してきた。車や鉄道はとても便利だけれど、そうやって移動することで見落としてしまうものが、私たちの心に留まらずに零れ落ちていくものがたくさんある気がしている。

AIRがはじまって3週間が過ぎ、場所が徐々に立ち上がってきた。古代から中世、現在へと繋がる古い道を歩いていると、澄んだものやよきものだけが湧き出ているのではなく、生にまつわる卑俗なもの、厭わしいこともすべて包含して、営みが綿々と続いてきたことをひしひしと感じる。

そして、かつて奈良盆地が水を湛えていたということ、そこから時を経て古代の人々が、時に日本海を越え大和を遡り、閉じられた地形でありながら外界に開かれたこの地に来ていたということにも強く惹かれる。また、長い時間が堆積し、交錯するこの盆地を眺めていると、「私たちはどこから来て、どこへ行くのか」という、アートにおける大きなテーマのひとつでもある問いが、思い起こされる。

【作家プロフィール】

大槻 唯我 Yuiga Ohtsuki

1990年生まれ

2023年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程修了。

被写体となる土地の詳細なリサーチ、フィールドワークに基づいた写真作品を制作している。主なコンセプトは、「風景ではなく場所を撮る」、「思考する隙間を提供する」、「死から生を捉え直す」最近では、現代の自然との関わりや過疎の進む行方についてのリサーチを重ね国内外のレジデンスに参加し活動のばを広げている。

主な展覧会・活動として、2021年「「風景」のつくりかた」(目黒区美術館区民ギャラリー)、2022年より科学者とアーティストの共同プロジェクト「ファンダメンタルズ」に参加、2023年「ZENAIR」(福井県永平寺町)などがある。

【展覧会概要】

展覧会名: 滞在アーティスト誘致交流事業文化村 AIR 成果発表展

綿々とはたづみ

作家名:大槻 唯我

会期:2024年11月16日(土)~11月27日(水)

時間:10:00~17:00

休廊日:11/18(月)、25日(月)

主催:なら歴史芸術文化村滞在アーティスト誘致交流事業実行委員会
(なら歴史芸術文化村・天理大学・天理市・桜井市)

お問い合わせ先:なら歴史芸術文化村滞在アーティスト誘致交流事業実行委員会事務局
天理市杣之内町 437-3 電話 0743-86-4420(代表)

